

新庄金属工業株

切削のプロとして未来を切り拓く

新庄金属工業株式会社（益山武義社長）の歴史は昭和三十七年、益山社長が切削加工所を創業したことに始まる。昭和六十年に現在の地に移転し、社名を新庄金属工業とした。同社では自動車部品、各種機構部品、またホビー用部品などあらゆるジャンルの商品の加工を手がけている。独自工法の開発に力を注ぎ、設計段階での顧客からの多彩な検討依頼にも提案型企業として真摯に対応している。

同社では自動車用部品やガス機器関連部品、携帯電話のインフラ関連（基地局用）の多品種少量ものを、北新金属工業株式会社では自動車用ラジエータの水温計のセンサー部品をメインとする量産ものを扱っている。

関西圏で同社ほど「NC複合加工機」の切削設備

リアすることにこそ専門メーカーとしての存在価値があると考えています」（益山慶三工場長）

しかし、精度が高くなればなるほど機体温度の変化に敏感で、外気の変化やほんの数分間、機械が停止しただけでも寸法や形状が変化してしまう。そこで同社は「二十四時間三百六十五日稼働」体制を採っている。三交代・休日シフト制を敷き、まさしく「稼働を絶やさない」という徹底した環境整備があるからこそである。

新たな技術や販路拡大に挑戦する中小企業をサポートする目的で作られた中小企業経営革新支援法。同社は二度にわたって認定されている稀有な企業である。平成十四年、NTTドコモの通信サービス「FOMA」における基地局装置端末とのデータ送受信や、信号処理システム端末の部品加工（精密切削）が評価された。続く平成十六年には、ハイブリッド・カーなどに搭載されているECB（電子制御ブレーキ）システムの電源バックアップユニットの一部品を製造。新たに直角形状の切削が可能になっ



社長
益山武義

昭和九年六月七日生まれ。大阪府出身。昭和三十七年会社設立と同年に社長就任。趣味―囲碁

が充実している企業は見当たらない。多品種少量生産に対応すべく「NC自動旋盤」を導入したのが昭和五十七年。生産性・精密性・複合化・省力化の面で著しい特徴を備えており、「NC複合加工機と独自の切削技術をもってすれば国内外の企業に負けることはない」と益山社長は自信のほどを語る。

同社は超微細加工技術を保有しており、厚さ〇・〇五ミリの製品への切削も可能だ。研究所等で試験的には可能だが、この超微細加工された製品を毎月数万本も量産できるところに同社の強みがある。また、以前は注射針メーカーで複数部品を組み立てていた製品を一体化加工へと導き、これにより十分の一の価格での提供が可能となった。

「機械メーカーが保障しかねる精度や加工能力をくれたポケット加工（特許出願中）や、ハイブリッド・カーの普及に伴うECBシステムのガソリン車への搭載も期待され、二回目の認定に至った。しかし、二度にわたる認定に安住することなく、「この認定は、いい人材といい資金、いい戦略があればこそその結果と考えています」と益山利二常務はさっぱり言い切る。

「一流の人材に育て上げるためには、社員に一流の環境・設備を与えること。『最高の人材が、最高の環境の中で、最高の製品をつくり、最高の収益を上げる』ことを目指し、日々邁進しております」と語る益山社長。同社の切削技術は、創業以来の伝統を受け継ぐ姿勢の賜物といえよう。

会社データ

本社所在地	大阪府生野区中川東二丁目一〇
設立	昭和三十七年一月
電話番号	〇六（六七五）九三三
資本金	三千万円／三十九名
売上高	九億六千五百八万円（平成十八年八月期）
事業内容	金属、プラスチックの精密切削加工業